

「中途入職したスタッフの声を聴きたい!」 30代女性:言語聴覚士

Q.何年目の時に星総合病院へ入職されましたか?

一言語聴覚士になって5年目で入職しました。前職の1・2年目は回復期病棟、3~5年目では系列のクリニックで通所と訪問を兼務しながら、急性期病棟にも足を運んでいました。

Q.当院を選ぶきっかけになったこと・就職の決め手について教えてください。

一訪問リハの業務を経験したことで、訪問が好きという気持ちはありました。利用者さんが在宅で生活をするなかで、実際に生活に即した問題にアプローチできる楽しさがありました。でも、自分の生活を整えるうえで地元で働くことも大切な選択肢の一つでした。郡山は総合病院が多く医療的な側面が多い中で当時、訪問業務を行う言語聴覚士がいたことを知っていたので、急性期から在宅まで幅広い職域を持ち、プライベートでも繋がりがあった星総合病院を選びました。

Q.働いてみて思う、リハ科の魅力は?

一平均年齢も若く、活気がある職場だと思っています。親しくコミュニケーションを取れていますね。研修や勉強会の開催・参加も充実していて、資格取得や学会に充てる休みや出張の対応など、学ぶことへのサポートが手厚いと感じています。「やりたいこと」を伝えられる・実現できる、伝えてもいいんだと思わせてくれる職場だと思います。入職当初は緊張していましたが、いまはすっかり仲間に入れていただいて。病院ですから大変なこと・つらいことはもちろんありますが、選んで間違いはなかったと思っていますし、楽しく仕事できています。ここで結婚・妊娠・出産も経験しましたが、その都度支えていただいたと思っています。

Q.一緒に働く言語聴覚士に、どんな人材を求めますか?

一言語聴覚士はコミュニケーションや食べる楽しみ、その人らしさに大きく関わる仕事です。その人を知りたい、患者さんやご家族はどうやったら幸せに生活できるのか、ということを実際に考えられる人がいいと思います。あとは自分以外の人に興味を持って仕事ができるのかなあ…患者さんだけでなく、「あの人が忙しそうだから何か手伝えるかな」とか、気配りができることとか。できれば言語聴覚士の人数をもっと増やして、患者さんに向き合う時間を増やしたいですね!目の前の患者さんのことを考える、という点ではいろいろな疾患の方であっても根本は変わらないと思います。周囲の人に相談できる環境が整っていて、自分ひとりで悩むことなく進んでいける職場だと思うので、一緒に働ける方が増えると嬉しいです。

Q.今は急性期での勤務となっていますが、地域や在宅の分野で働きたい、という思いは今も持っていますか?

一いずれは、という思いは今もあります。訪問に携わっていた頃は、利用者さんと一緒にスポーツ選手にファンレターを書いたり、外出を介した関わりをしたり、ご自宅ならではの楽しみがありました。しかし、在宅の分野は視点を変えると超々急性期・発症の場所でもあるので、見極める力や対応力が求められます。リスク管理・フィジカルアセスメントが前の職場のころではまだ不足しているところもありました。総合病院に来たことで脳血管疾患以外にも関わる幅が広くなり、常に学べる環境であることが強みになっています。

Q.最後に、今後目指す療法士像や目標を教えてください!

一急性期病院で人数が限られている中、ひとりの患者さんに費やす時間がなかなか持てていませんが、それによって「意外と自分、患者さんという時間が好きなんだ」と改めて気づくことができています。将来的にはまた在宅・地域の業務の割合を増やしていきたいなと思っています。病院を退院した患者さんの近況を聞けることが少なく、次に会う時には「再入院」という形であることも少なくありません。もし足を運べるなら、地域と病院をつなぐ存在になっていきたいなと思います。この思いは今も昔も変わっていないし、そのために自分自身が成長したいなと思います。